

## 「故郷」

鹿屋市立輝北中学校 校長 堀内 隆史

先日鹿屋市制施行20周年記念式典が開催された。平成18年旧1市3町が合併し20年になる。20年前何をしていたかを思いながら式に参加していた。今年の7月、私は還暦を迎えた。人生早いものである。自身校長として最後となる我が輝北中学校は、平成23年に百引中・市成中を統合し、今年で15年目のまだまだ若い学校である。

今年の初めに、今住んでいる輝北町市成の宮園集落の新年会が数年振りに開催され参加した。とても寒い日であったので鍋と焼酎がとてもおいしかった。参加された集落の皆様は皆私よりも先輩の方々であった。実は宮園集落には中学生が一人も住んでいない。つまり今のPTAはいないことになる。高齢化がすすんでおり、ある方が冗談交じりに「ここは限界集落じゃよ。」と笑いながら言っていた。焼酎がはずみだし、皆が私に次から次へと旧市成中時代の昔話をしてくれた。よく先生から怒られたこと、部活動が盛んだったこと、親としてPTAとなり、PTA会長として活動したこと等を誇らしげに楽しそうに思い出を語ってくれた。母校に対する思いは、何年たっても強いものがあり、今の中学校にも関心が高い。私はそんな様子にうらやましさを感じたものであった。

私は、中学1年まで千葉県で生まれ育った。以後兵庫・福岡と昨年亡くなった父の転勤の関係で学校も転々とした。両親とも鹿児島県人であり、鹿屋は母の里であり、父の定年退職後から両親鹿屋在住となった。小学生の頃は夏休みや冬休みに鹿屋の祖父のところへ長期帰省するのが楽しみであった。祖父の家は本町にあったが、当時の街は賑わっていた。

特に夏祭りにいくのが楽しみであった。町中を流れている肝属川にミミズを餌にフナやハヤを釣りによくいったものだった。たしか、ウナギもとれ、罟を仕掛けていた人がいたことも覚えている。今ではどうなんだろう。信じられない。

昨年千葉県の自分の母校である中学校を訪れる機会があった。当時は電車による通学だったので東千葉駅から歩いてみた。当然ながら町並みはすっかり変わっており、ナビがなければたどり着けなかったと思う。45年振りに訪れることができた母校であったが、記憶の中にあるものとはしっかりと変わっており寂しさを感じてしまうものがあった。

人には皆「故郷」があり、「学校」はその象徴であり、地域のシンボルだと思う。「学校」は、人と人とを結びつけてくれる場でもある。私は鹿児島県教員として今年で37年目となった。おかげさまでその土地それぞれの文化に触れ人情の温かさをもらい、たくさんの地域の方々からお世話になっている。そして今、輝北の地でお世話になりながら「故郷」の象徴である輝北中学校の経営に全力を挙げていきたい。

